

スクールバス＜幼児専用車＞ 安全運転・対策の再徹底をお願い致します！！

去る11月1日、国土交通省の平成24年度第2回車両安全対策検討会において、下記のとおり、幼児専用車の安全対策の大枠の方向性が示されました。すでに検討会直下にワーキンググループを設置しており、今後も安全性向上策の整理・評価及び材質・寸法要件等を含む具体的な幼児用座席の設計のあり方について引き続き検討が進められます。

全日私幼連としては、本年3月に『幼児専用車の安全性の検討にあたって、使用実態の正確な把握を行いたい』との趣旨のもと、国土交通省と意見交換を行ない、その後上述のとおり、7月と9月の2回にわたりワーキンググループに出席し、幼児専用車の安全対策について議論してまいりました。会議の方向性としては、シートベルトの装備（2点式）・シートバックの変更（ハイバック、緩衝材）の提案があり、幼稚園側としては、非常に厳しい状況です。これは、3月に起きた幼児専用車の衝突・横転事故の影響があるものと考えられます。

ただ今、香川会長を中心として執行部一丸となって真摯に対応しております。各園におかれましては、安全運転・対策の再徹底をお願い致します。なお、今後の動向につきましては、引き続き注視し、情報特急便及び会議等でいち早くお知らせできるよう努めてまいります。

記

【安全対策の方向性】

幼児専用車に係る交通事故分析結果（前方座席が加害部位となって、頭部、顔部、頸部を受傷（軽傷）することが多い）、座席ベルト装備に係る技術的な課題（体格差の大きい幼児への一定の座席ベルト設定の困難性、緊急時の脱出性を含むベルトの脱着性等）や使用上の課題、短時間に一定のエリアで運行される幼児専用車の使用実態等を勘案して、安全性向上策を整理・評価し、一定の方向性を示すことを目指すこととなりました。

【今後のワーキンググループにおけるスケジュール】

今回の検討会での議論を参考に、引き続き、幼児専用車の安全性向上策の整理・評価及び材質・寸法要件等を含む具体的な幼児用座席の設計のあり方について、同ワーキンググループで検討が進められることとなります。

【お願い】

最近、スクールバスの事故が多く見受けられます。子どもたちの安全・生命のため、スクールバスの安全運転・対策の再徹底をお願い致します。また、幼児専用車にて高速道路を使用した園外保育・遠足は控えさせていただきますようお願い致します。今後さらに事故が起こった場合、ワーキンググループにおいてさらに厳しい立場となることが予想されます。

どうか各園におかれましては、安全運転・対策の再徹底の程、ご理解・ご協力賜りますようお願い致します。